

目標達成計画

作成日: 令和 3年 1月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時に全員の避難が難しい。	脚の筋力をつける。 食料のなどの備蓄と職員の緊急連絡時の訓練	高齢化・認知症による機能低下もみられるが、可能な限りご自分の足で避難できるように日常生活の中に運動を取り入れる。食料品のほか飲み水の備蓄。停電時の暖を取る為灯油ストーブの保管しておく。緊急時を想定した緊急連絡の訓練を行う。	1ヶ月
2	27	個別記録の記入が実践に活かされていない。	個別記録の記入を充実させ実践に活かした介護サービスを行う。	体調の変化・内服薬による変化を正確に記入する。日々の様子・気づきを具体的に記入し、職員間で情報共有しモニタリングを行いながら、介護計画につなげ、よりよい支援を行っていく 当日の支援目標を立て、毎夕のミーティング等でその効果を報告し、考えられるより良い支援方法を検討すると共に、ケア記録や申し送り事項に記録する。 ヒヤリハット情報の蓄積を行い情報ツールとしていかしていく。	1ヶ月
3	49	希望に添った外出支援が出来ていない。	環境を整え、車いす・歩行器でも外出が出来るようにする。	自立歩行の方には、寒さ・暑さ対策をしながら外出支援を行い、車いす・歩行器の方には、ベランダに出るための補助具を用意する。 下肢を中心に筋力が低下しないよう機能訓練を行う。	3ヶ月
4	45	入浴を楽しむことが出来ていない。筋力低下で浴槽にまたいで入れない・立ち上がれない。	脚の筋力をつけて自分の力で浴槽に入ることが出来る。 一人ひとりの希望やタイミングに合わせ安心、安全に入浴が出来る様に支援する。	自立の方は筋力低下を防ぎ入浴を楽しんでいただくため運動を行う。車いすの方には機械浴の方向に切り替える様担当者会議を行う。入浴を楽しめる時間にする。	3ヶ月
5	2	地域との交流ができていない。	地域との接点もてるよう交流の場として使用していただけるようにする。 地域の方にグループホームの活動内容を理解していただくために交流を盛んに行い疑問点の解消に努める。	コロナウイルス感染症が落ち着き、地域も行事などを再開したら、入居者様も参加させていただく。 地域運動教室を継続する。 地域の身近な相談窓口として介護するための知識や方法または介護予防などに関するご相談などできるよう回覧版等を利用して情報発信していく。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。